



色がなくなった。今は緑色。
There are no colors anymore. Just green.



主催／周南市文化振興財団
共催／**KRY**山口放送
後援／読売新聞社
制作／林忠彦事務局(周南市美術博物館)



モザイク模様。
Mosaic pattern.

**YAMAGUCHI
SHUNAN**
2025.4.26-5.11

**HOKKAIDO
HIGASHIKAWA**
2025.12.28-2026.1.18

<http://hayashi-award.com/>



人は影になる。どちらを向いているかわからない。
People are shadows. I don't know which way they are facing.



A L T

オルト
鶴巻 育子

IKUKO TSURUMAKI

第33回林忠彦賞は
鶴巻育子氏の写真集・写真展「ALT」に
決定しました。(詳細は中ページへ)

授賞式は周南市で行います

第33回林忠彦賞 受賞記念写真展

33
HAYASHI
TADAHIKO
AWARD

林忠彦賞はこんな賞

— 社会は心を撃つ写真をさがしています —

山口県周南市出身の写真家林忠彦の名を冠した「林忠彦賞」は、林忠彦が「太宰治」「坂口安吾」などの作品で戦後の写真界に颯爽と躍り出た、最もエネルギー溢る時代に照準を合わせ、「社会が求める、その時代を一番象徴する写真を選び出そう」をコンセプトとしています。1991年(平成3)故郷である周南市と周南市文化振興財団が創設、今回で33回を数えます。

選考委員

敬称略・五十音順

大石 芳野 写真家(選考委員長)

笠原美智子 長野県立美術館長

河野 和典 編集者、(公社)日本写真協会出版広報委員

小林 紀晴 写真家

有田 順一 周南市美術博物館館長



林忠彦

Hayashi Tadahiko
[1918-1990]

山口県周南市出身。報道カメラマンとしてスタートし、人物写真、風景写真を撮り続けました。銀座のバー、ルパンで撮影した「太宰治」、原稿用紙に埋もれた「坂口安吾」、戦後の東京の姿をとらえた「カストリ時代」などが知られています。一方で秋山庄太郎らと二科会に写真部を創設するなどアマチュア写真家の育成にも力を注ぎ、生涯を通じて写真文化の発展に尽力しました。



左「太宰治」
右上「坂口安吾」
右下「煙草をくむらす戦災孤児」
(カストリ時代より)

第33回林忠彦賞受賞作「ALT」(オルト)

第33回林忠彦賞は、81点の応募作品の中から厳正な審査の結果、鶴巻育子さんの「ALT」に決定しました。

「ALT」は、「見る」とはどのようなことをテーマにした作品です。本作は3部構成で、セクション1では、視覚障害者のポートレートを撮影しています。セクション2では、視覚障害者から見え方を聞き取って、正解ではないことを前提に写真化しました。セクション3では、視覚障害者と一緒に街でスナップ撮影を行い、視覚以外で世界を感じ取っている人々の感覚を写真で視覚化し、見えている鶴巻さんの写真と対比させています。目で見ることが全てではないということ、「見る」ということを改めて考えさせられる作品です。

ALTとは alternateの略。代わりのもの、代替え、交互の、他の可能性、他の手段。X(旧Twitter)では「+ALT」ボタンは代替えテキストの略称で、画像の説明を示す用語として使われている。

選考委員 講評より

本作は、時間をかけて丹念に撮影した写真集です。見える自分が、見えない彼らとどう違うのか、同じなのか、彼らはどう世界観の中にいるのか。想像力をもって進めてきたことで、この写真の意義深さも伝わってきます。この作品の特徴は、目が見えない人の、あるいは少しでも見えている人たちの感性を掘り下げようとしている点にあります。見え方を聞いて視覚化したセクション2「※写真はイメージです」では、写真を見る側の私たちの想像力も膨らませられ、テーマの普遍性を感じます。芸術的な思索を自身と被写体のコラボレーションによって写真作品化したもので、林忠彦賞に相応しい写真集です。

第33回林忠彦賞 最終候補作品 7点

(敬称略・五十音順)

岩永 豊「ハレの日、ケの日 ふるさと佐賀」 紀成道「かぜとつちと」
渋谷 敦志「能登を、結ぶ。」 露口 啓二「移住」 鶴巻 育子「ALT」
吉江 淳「出口の町」 吉岡 紀子「Condition Rainbow」



写真集「ALT」



鶴巻育子
プロフィール

1972年東京生まれ。1997年の1年間渡英し語学を学ぶ。帰国後、写真を学び始める。カメラ雑誌の執筆や写真講師など幅広く活動する一方、2019年に東京・目黒に写真ギャラリー「Jam Photo Gallery」を開設。国内外のストリートスナップで作品を発表しながら、視覚障害者の人々取材し「みること」をテーマとした作品にも取り組んでいる。

第33回林忠彦賞の授賞式は周南市で行います!

日時 4月26日(土)14:00~16:00

会場 遠石会館 千歳の間
(山口県周南市遠石2丁目3-1)

第一部 授賞式
第二部 講演会 中藤毅彦氏(第24回林忠彦賞受賞)
※詳しくはホームページをご覧ください。
参加ご希望の方は電話でお申し込みください。
周南市美術博物館(0834-22-8880)

どなたでも
ご参加
いただけます



林忠彦賞
ホームページ

受賞記念写真展へ 行ってみよう。

1 周南展

— 林忠彦の生誕地にある — 周南市美術博物館

2025年
4月26日(土)→5月11日(日)
4月28日(月)、5月7日(水)休館
9:30~17:00(入館は16:30まで)

観覧
無料

◆会期中は林忠彦記念室を含む常設展も無料でご覧いただけます。

山口県周南市花畠町10-16 TEL(0834)22-8880
<http://s-bunka.jp/bihaku/>

【鶴巻育子氏トークショー】

4月27日(日) 10:30~
作品についてお話を伺います。

参加
無料

話し手: 鶴巻育子氏
聞き手: 有田順一(周南市美術博物館館長 林忠彦賞選考委員)
会場/周南市美術博物館 講座室
定員/40名(先着順)
電話でお申し込みください(0834-22-8880)

2 東川展

写真の町 東川町文化ギャラリー

2025年 2026年
12月28日(日)→1月18日(日)
12月31日(水)~1月5日(月)休館
10:00~17:00
観覧料/100円 中学生以下無料
北海道上川郡東川町東町1-19-8
TEL(0166)82-4700
<https://higashikawa-town.jp/bunkagallery>